

# タイでの学びを有意義にするために



## 色々な「人」

## 浸透した価値観



- 王室への敬意と仏教の教え  
→国のいたるところ、教室にも国王の写真や像が飾られていた。また、仏教徒が多く、教育の様々な部分で王室への敬意や仏教の教えが感じられた。
- 多様性の捉え方  
→日本では多様性が認知され始めて数年たった。タイでは「そもそも人は生まれながらにそれぞれ違うもの」という認識。

価値観

人

共通理念

- 様々な立場  
→教育に関わる人はたくさんいる。教師、子ども、保護者、地域の人、国、そのすべての人達が、どのように関わり合いをしていくか。
- 学びの意欲の高さ  
→ノンフォーマル教育の可能性に心が躍った。「自分が学びたい」という気持ちを持った人を支援する仕組みが充実していた。学校だけではなく、町で出会う人も意欲的な人が多かった感覚がある。



## 共通理念の大切さ

- HAPPY LEARNINGというキーワード  
→どの学校の職員も「幸せ」について考え続けており、「教員の幸せ」「子どもの幸せ」「国・保護者の幸せ」の関わる全ての幸せについて積極的に活動をしている。  
Well-beingに通ずるものがあり、キャリア教育の観点でも参考になった。

## 所感

- 自国の教育の良さ  
→他国と比較することで改めて自国の教育の特性や良さについて気付くことがあった。異文化理解の本質が体感できた感覚があり充実感あふれる一週間であった。
- 自身の幸せについて  
→幸せについて、深く考えたことはあったが、常にではなかった。自分の年齢とともに考え方や捉え方、見える景色は変わっていき、幸せも形を変えていく。この1週間で幸せの変容が始まった。

幸せの形づくり

# 私のアクションプラン

## 生徒に対して

- ・キーワードメイキング  
→振り返ってみると日本でも学級目標があり、学年目標があり、学校目標がある。そのキーワードを話の中に盛り込んでいく。また、生徒主体でキーワードを考えさせ、様々な場面でそのキーワードを絡めた活動をさせる。
- ・国際的な視野の拡張  
→グローバルな気づきを促し、商業科の中で視野を広げる。

## 教職員に対して

- ・研修情報の共有  
→本研修の取り組み及び、その後の活動の共有を行う。研修の良さや学んだことも職員会議や集会などで発表の機会を設け、できるだけ多くの先生に知ってもらう。また、自身とともに参加を促す。
- ・学校の業務の中でキーワードを浸透させていく  
→教職員の共通理念を明確にし、その理念に基づいた支援をチームで考え行動していく。

## 自分に対して

- ・さらなる研修  
→複数の国に渡り、様々な観点と良さを模索する。本国の中でも教科研究に力を入れ、教科の視点で強く見ていきたい。
- ・チェンジメーカーとしての意識改革と模範例  
→本研修で出会った日本教職員の先生方やタイの教職員の方を模範とし、自分自身がチェンジメーカーとしてどんな働きができるか様々な研修や取り組みに参加し、人格的成長と教職員としての教授スキルの発展を目指す。